



伊藤穰一の
フューチャースケープ

ROUND 8

ICANN騒動とインターネットガバナンス

ICANN代表のスチュアート・リンの発言が物議を醸している。3月18日付けの『Overcoming ICANN: Forging Better Paths for the Internet』(ICANNを超えて:インターネットのよりよい未来のために)と題されたPFIRの声明では、デビッド・ファーバーやピーター・ノイマンたちが、ICANNに対してとうとう最後通牒を突きつけている¹。現在の「ICANNお家騒動」に至るまでのだいたいの流れは、このアニメーション²を見るとわかりやすい。ただ、理事の1人で今ICANNを訴えているカール・アウアーバックがスーパーマンの格好してて、ジョン・ポステルが神格化されてて、他の人たちがただの金の亡者の悪者扱いされてることからもわかるように、結構ウケ狙いの作りだけど、事実はキチンとおさえてあったりする。さて、ICANNにまつわるこのドタバタ騒ぎに関して、僕の意見はといえば「もうダメじゃん。これに尽きる。

協力・高間剛典
構成・先田千映
Photo: Nakamura Tohru (mermaid)

ICANNを廃止する?

ICANNの問題に関しては、ジョン・ペリー・バーロウ³やピーター・ノイマンが、いちばん冷静かつ確かな指摘をしていると思う。彼らはもう、ずいぶん前から何度も「ICANNは変えたほうがいい」「変わらなければいけない」と言い続けてきた。で、今年になって、良くなるどころか悪くなる一方のICANNに対して「もう廃止しちゃえば」という声が上がってきたわけだ。

ICANNのどこに問題があるのか。いくつかポイントを挙げてみよう。

ひとつには「インターネットそのものは、必要以上にコントロールしないで問題があるところだけ限定して処理すべき」という本来のやり方から大きくはずれてしまったということ。

もともとICANNは、ルートサーバーの分散とフェアネス、TLDやドメイン名の紛争など、どうしても解決できない問題を扱う組織として1998年に設立された。それまでは故ジョン・ポステル⁴がやってくれていたことを、もう少し組織的にやろう、初期のIETFみたいに「インターネット的」なモデルでやろうということが始まったはずだ。それが、次第に企業の方に、お金の方に走り、今度は国家権力を巻き込もうとしている。「組織のための組織」、自己増幅型の組織に様相を変えたわけだ。小泉さんと同じで、人間、権力を握ると、弱くなっちゃうものなんだよね。

次に、非常に中途半端な中立性をもった組織であるということ。むしろこれが政府の機関なら、何かあれば憲法違反ということで訴訟を起こすこともできる。日本で言うところの日弁連みたいなもので、外郭団体に付き物の中途半端な悪い要素をもっているわけだ。その上、登記上は米国のコーポレーションの形をとっているから、最終的には何らかの形で米国政府からの干渉もあり得る、というおまけ付き。

次にあるのがDNSのルートサーバーの

権利問題。実際にルートサーバーを管理しているのはボランティアの人だけど、ICANN(スチュアート・リン)は「うちから彼らにお金を配るから予算をよこせ」と言い出してる。これがインターネットの根っこの発想に逆行していることは言うまでもない。こんなICANNにムカついた人たちが、既存のサーバー以外の勝手に建てられたルートサーバーを指定すれば、今でも使えることは使えるわけ。それから、たとえば数年先には世界のインターネット人口の半数を占めるはずの中国が「もうICANNはいらない。私たちは自分たちのDNSを使います。中国国民は政府を信用しなさい」って言い出したら、実際にきちゃうんだよね。トラフィックの90パーセントは国外に出ないんだから、ゲートウェイをひとつだけ置いて、中国のネットワーク全体を巨大なNATみたいにしてしまうという発想は、あり得ないことではない。歓迎すべき事態ではないけど。

もうひとつ、インターネットにおける正しい議論の手法を使っていないというも問題だ。ICANNのページにはスチュアート・リンのコメントしか載っていないし、他の意見へのリンクも張られていない。その上、彼個人の意見をボードも通さずにいきなり載せている。僕が正しいディベートのフォーマットだと思う具体例は、このblog⁵。こんな風にみんなの意見にリンクを張る、ウェブログ形式のジャーナリズムは、最近本当に良くなってきているよね。これは明るい兆候だと思う。

最後に、ICANNの問題点の本質は、彼らが「政治をアーキテクチャーにしようとしている」ことにあると思う。以前にこの連載でも触れたローレンス・レッシングによれば、「コードは法に、アーキテクチャーは政治に」リンクする。逆は真ではない。

波紋を呼ぶリンの発言

ICANNにいろいろ根深い問題があるこ

とはわかった。じゃあ、なぜ突然、今これほど問題になっているのかというと、やっぱり代表のスチュアート・リンのコメントが原因だろうね。内容のポイントは2つ。「予算を増やせ」ということと「一般からの役員の選挙はやめる」ということ。なんかもう、日本のドブ板政治を彷彿とさせるといって、まさに「宗男状態」だよな。

これが国の政治なら、法律の力で物事を進められる。でもそれは、警察や国境があるからで、インターネットというオープンな世界では、みんなが賛同してくれることがコントロールの前提となる。CCITTやITU⁶が標準化したプロトコルではなく、TCP/IPが選ばれたのも、みんなが使いたいと思って使ったからだ。

ICANNの今のやり方は、国家権力を巻き込んで、フォースで物事を押しつけようとするようなもので、インターネットコミュニティーを意志決定のプロセスに巻き込もうという積極的な姿勢が見られない。ゆえに、ICANNは彼らから完全に見捨てられてしまった。しかも、ICANNの役員たちは基本的にガバナンスの専門家でも、政治の専門家でもない。インターネットを理解している専門家の代表だったはずなのに、中途半端に権力ゲームの方に目が行っちゃって、そもそも彼らがやるべき、技術的なディテールを捌くということがおろそかになった。だから「こんな組織には意味がないよね」という議論が起こるのは当然といえば当然のことなのだ。

余談になるけど、いわゆる「インターネットコミュニティー」の中には、「ネットのために」をお題目に無責任に細かいことグチャグチャ言いたがる人も多い。そういう自己中心的な人たちからの支持を前提とした組織を運営するって、いかにタイヘンかは僕にも想像がつく。パーロウだって「なんで俺はこいつらのために体張って闘ってるんだ、ってときどき思う」とこぼしていた。でも彼らを排除しようとするICANNのやり方はクレバーではない。必ず倍返しに

ICANNにまつわる
このドタバタ騒ぎに関して
僕の意見はといえば
「もうダメじゃん」

ICANNの問題点の本質は
政治をアーキテクチャーに
しようとしていることに
あると思う

されるって想像がつくよね。要するに、こういう組織を作って、それを続けていくことは、どうしたって難しい。

官僚的プロセスでは決められない

国連みたいな機関に任せるべきだという意見もある。でもそれはいいアイデアとは言いがたい。今僕は国連のUNCITRAL⁷の勉強会で電子商取引のルール、特に電子署名に関する議論に参加しているんだけど「企業間の取引のルールに今さら、あえて国連が口を出す必要はあるのだろうか」と思うことがある。国連で何かを決めるには、ものすごいプロセスを踏まなきゃいけないということも実感した。これは日本の国会とも通じる問題で、たとえば住基ネットに関する質疑応答なんか見ても、不毛な印象はぬぐえない。プロセス自体が腐っている。技術的なことを何も理解しようとしないう政治家が、自分たちの間で勝手に物事を決めちゃってる官僚に対して「セキュリティは大丈夫なんですか」「大丈夫です」「そうですか、わかりました。以上です」「では次の質問」みたいな。ディベートにもなんにもなっていない。

政府や国連は、もっとみんながコモンセンスで理解できるような問題を議論するには有効な組織だ。政府なら死刑問題や福祉問題、国連なら国家安全保障や難民問題、環境問題。ところが、インターネットの技術的な部分は、万人が理解できる代物ではない。しかも、世界中の人のあらゆる価値観や利害関係に関わってくるのがインターネットだ。みんな同じドンブリに入って、同じ土俵で議論することはほとんど不可能に近い。

インターネット自体の価値がすでに高まってしまったから、利権にむらがる権力者から離れた、本当に中立的な組織を作るのは不可能なのかもしれない。難しさは僕にもよくわかっている。

去年ピーター・ノイマンたちと議論した

ときに、こんな話になった。「インターネットの今の状況って、第二次大戦前の原子力研究に似てないか?」。研究者たちが、そのとてつもないポテンシャルに気がついて、原子力の未来について組織的に社会的責任を果たすことを考え始めたら、突然、アメリカ政府がやって来て「ハイそれまで。ここからは軍事領域だ」と学者たちを締め出した。ICANNもあまりダメだと国家権力に乗っ取られてしまう危険性がなくもないわけだ。でもそれは嫌だよね、というのがみんなの意見。

今でもルートサーバーを管理しているのはボランティアのNASAのエンジニアだったりするところに、インターネットの素晴らしさがある。もともと作った人たちがすごく賢くて、特定の間人が支配権を握ることがあらかじめ技術的に不可能になっているわけだ。インターネットには、特定の人や国のものにはできない性質がある。それだけは、あきらめたくはない。

“カーネル”部分を限られた議論で

じゃあどうするか。先述のPFIRの3人が出しているコメントでは「ICANN『以後』をどうするか」という具体的な方策も打ち出されている。短期的にはISOCの下部組織であるInternet Architecture Board(インターネット技術標準化に関する事務処理を行う組織)に当分の間引き継いでもらうというもの。いったんそこに置いて、もっとグローバルなディベートをした上で、今後どうするか決めるべきだと。

ジョン・ベリー・パーロウの意見では「あえて全部を仕切るような大きな組織は作る必要がない。作ってはいけない」。さらに彼は具体的に「たとえば.pubや.lib、つまりNPOや図書館のTLDだけ作っちゃって、彼らのコミュニティがどうやって運営していくかをモデルケースとすればいい」と提案している。つまり、利権を争ったりしないタイプの人たちに、まずは勝手にやら

せてみて、互いにどうコンフリクトを解決するのかを見れば、参考になるんじゃないかということだ。それは僕もとてもいい提案だと思う。

さらに、あらためてノイマンと電話で話して、僕らの意見をまとめてみた。

パロウ同様、まずは分散する。ドメインネームなどの問題に関しては、各TLDのコミュニティ、つまりはガバナンスの主体に完全に任せてしまう。複雑だからこそ、一個一個の問題をバラす必要がある。ひとつひとつのパーツを小さく切って、パーツごとの関係者だけで議論する。

次に、そこでは解決できない問題、アドレス空間の番号のところのみを扱うごく小さな中立的な機関が必要だ。誰もが技術的なことを理解できるわけではないから、大きくすることには百害あって一利なし。

たとえば初期のIETFのやり方みたいに、限定された人間で集まって、クローズドな形でキチンと議論する。どのくらいクローズドにするかは、リーナス型とストールマン型、あるいは伽藍型とバザール型といったように意見が分かるところだと思う。ただ、基本になるモデルコードは何人かで作るべきだろう。いわば、ルールの「カーネル」部分だけを限られた人間で作って、できたものをオープンに評価してもらうという仕組みだ。

みんなが「あ、これ使えるじゃん」ということになれば、世論の大きな流れは変えられると思う。そもそも、国が押しつけようとしたCCITTが標準としたプロトコルなんかにはTCP/IPが打ち勝っちゃったのも、村井純先生みたいな人たちが「こっちの方がいいじゃん」として勝手に使い出しちゃったからなんだよね。

国がいくらやれっていったって、最終的には技術的なインプリメンテーションが必要になる。結局、インターネットには国や権力者がフォースで制御することはできない力がある。その力を信じたいと、僕は思っているわけだ。

【用語解説】

1 Overcoming ICANN: Forging Better Paths for the Internet
「ICANNという実験は失敗であると証明された」というショッキングな書き出しで始まるPFIR (People For Internet Responsibility)の公開書簡。ARPANetの時代からインターネットを見守り続けてきた大御所で、主催するメーリングリスト「Interesting People」でも有名なデビッド・J・ファーバー、同じく60年代のベル研究所時代からネットワークセキュリティの問題に取り組んでいるSRIのピーター・G・ノイマン、そして彼らとともにPFIRを設立したローレン・ワインシュタインの連名で発表されている。具体的な4つの問題点についてはそれ以前にPFIRが発表してきた声明で詳述されている。

www.pfir.org
www.pfir.org/statements/icann/

2 ICANN Movie
ICANN設立以来の問題を戯画化した風刺的なフラッシュムービー。主観的描写を削りながら見ればこれまでのICANNの問題点を笑いながら理解できる。

www.paradigm.nu/icann/

3 ジョン・ベリー・パロウ
デジタル時代の人権とプライバシー保護を訴えて積極的な活動を続ける財団、EFF (Electronic Frontier Foundation)の共同創設者で、現在はヴァイスチエアマンを務める。「サイバースペース (cyberspace) という言葉を現在のインターネット的な意味で使ったのは彼が最初。意外なところでは伝説的ロックバンド『グレートフルデッド』の作詞家としても知られている。

www.eff.org

4 ジョン・ポステル
ICANNの前身となったIANA (Internet Assigned Number Authority) を実質的に1人で運営していた「インターネットの父」。無私な精神と謙虚で高潔な人柄で初期インターネットの民主的な発展に貢献した。1998年10月、55歳の若さで永眠。利害の異なるあらゆる立場の人々による追悼メッセージがネットに溢れた。

www.isi.edu/~postel/

5 blog
blogとはweb logの略。ウェブで公開されている日記形式の著述フォーマットを指す。知的所有権とインターネットを専門とする弁護士で、ICANNの下部組織「Domain Name Supporting Organization」のボードメンバーでもあるブレット・フォーセット氏による『ICANN Blog』では、ICANNに関する記事や発言への膨大なリンクが刻々とアップデートされている。

www.lextext.com/icann/

6 CCITT, ITU
ITU (国際電気通信連合: International Telecommunication Union) は、電気通信に関する国際的な標準化を目的とする国連の下部組織。「v.90」などのプロトコルを策定し、ITU勧告という形で各国に到達している。通信部門ITU-TSの前身となったCCITT (国際電信電話諮問委員会) ではISOと共同で「OSI 7層構造モデル」を策定している。

www.itu.int

7 UNCITRAL
国連国際商取引法委員会 (United Nations Commission on International Trade Law) 。国際商取引の近代化と調和を目的とする国連の下部機関。近年では電子商取引に関するモデル法を策定したほか、電子署名・電子認証の標準化に注力している。

www.uncitral.org



from Joi's Diary

www.neoteny.com/jito/

【2002年3月某日】

アップルでいちばん優秀だったプログラマーって言われているデビッド・スミスに会った。彼はいまアラン・ケイと一緒に「Squeak」というSmalltalkをベースにした環境を開発している。いまのコンピュータはXEROX PARCにあったのと20年間ほとんど変わってない。だから彼らはまったく新しいオブジェクト指向のコンピュータを作ろうとしているんだ。デモを見せてもらったんだけど、カッコイイんだよね。これからは楽しみ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp